

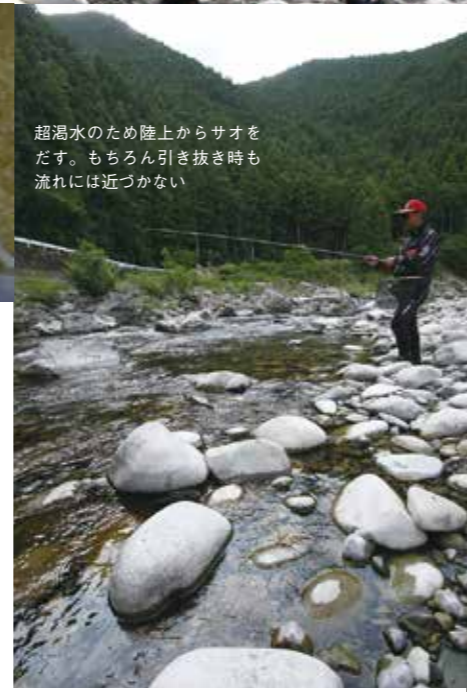
大塔日置川県立自然公園にある本流の赤い吊り橋付近でサオをだしたのは 2013 年 8 月 22 日



超濁水で水温も上昇した午後、追いは悪かったが大瀬の中の大石の間から野アユを引き出した



25cm クラスの良型。9月に入れば尺に迫る大型も夢ではない



超濁水のため陸上からサオをだす。もちろん引き抜き時も流れには近づかない

解禁日から入れ掛かりも夢ではない美しい上流地区

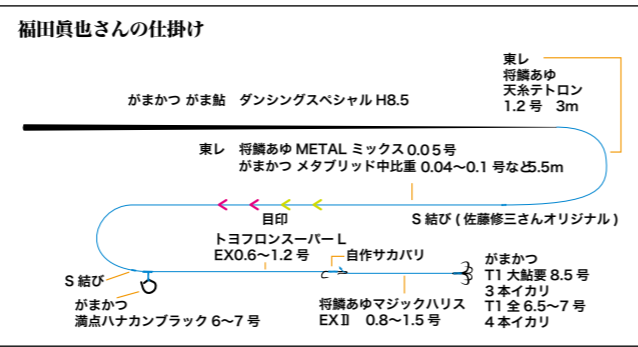
日置川 ダム上

合川ダムから上流の本支流は石が大きい溪流相の釣り場が多くなるが、本流をさらに遡ると近露地区は再び河原が開けたやさしい川相となる。バリエーション豊富な釣り場が日置川ダム上の魅力だ

解説◎福田真也

水質とサイズは 将軍川が断トツ

「日置川は本流に広い」と思っているのは私ひとりではないはずだ。ダム下流に加えてダム上流の本流筋はもちろん、前ノ川、将軍川、安川と支流も多い。それを考えると入漁料はリーズナブル。私などはお得感でいっぱいになる。支流はそれぞれの河川も水の透明度が高く、とても美しい。当然ながら釣れるアユも非常に美味である。なかでも将軍川が群を抜いて美しく、釣れるアユも一回り大きい。近年、下流域では天然遡上が遅れがちでアユの生育もその分遅くなっているため、特に解禁当初は日置川でもダム上の釣り場が人気を集めるようになった。解禁直前に大雨に見舞われダム下流や他の河川が釣行不可能になった場合でも、支流ならよい釣り場ができたりと、よいことづくめだ。私も解禁日にサオをだせず欲求不満でいたところへ、釣友から日置川ダム上で数釣りできたこと連絡が入り、びっくりしたことがある。次の日、仕事を放つたらかして釣行したの言うまでもない。



ない。おかげで1日遅れだが自分なりの解禁の釣りができて溜飲を下げるのができた。いまや人気絶大のダム上でも特に本流筋上流の近露地区、支流では前ノ川でしっかりと稚魚放流が行なわれている。解禁日には3ヶタ釣りもあるほど、釣り人の期待を裏切らない。タックルはサオを川幅に合わせて7・2〜9mで、心持ち硬めがよいと思う。ラインは複合メタルの0・05〜0・1号、ナイロン、フロロカーボンなら0・2号以上でポイントにオトリを投げ入れるように直送することもある。ハリは早掛けタイプより根掛かりのリスクを少なくするために、オートンクを少なキツネ型のほうがよいと思う。自然と対話しながら美しいアユ河川で遊べたらストレスなど、どこかへ……。それが日置川ダム上の魅力だ。

